

株式会社バンダイナムコホールディングス



バンダイナムコ事例に見る、会議用途以外の Web 会議活用



導入ソリューション

Cisco WebEx Meeting Center

導入前の課題、検討事例

- ・ 地方拠点間、グループ会社間、外部協力会社とのコミュニケーションに課題。
- ・ ビデオ会議システムが導入されていたが、端末の数に限りがあり、会議室は常に予約で満杯。
- ・ セキュリティに対する懸念のあるフリーウェア利用の拡大。

導入効果

- ・ 海外在住学生対象に WebEx による面接を本格的に展開、“とにかく会う”ことで優秀な学生をインターンシップに招くことに成功。
- ・ 全国7拠点間で実際にあっているのと同様の迫力あるマネージャー会議が習慣に。売上詳細の迅速な把握が可能に。
- ・ ゲーム開発での外部協力会社の協業に活用、移動コストも削減でき、ちょっとした修正などにも迅速に対応可能に。

バンダイナムコホールディングスでは、シスコシステムズの Web 会議ソリューション「Cisco WebEx Meeting Center」を使用して、海外の学生をインターンシップのために採用面接したり、協力会社と文字通り協業するために活用して、大きな利便性を実感している。目的は別に“会議”でなくてもいいのだ。人と人が交流する場面があれば、そこにはきっと Web 会議活用の余地がある。“これができるならあれも…”、そう、その想像はきっと正しい。

地方拠点間、外部協力会社とのコミュニケーションに課題

導入の経緯

『バックマン』『たまごっち』『機動戦士ガンダム』。子どもから大人まで、楽しく遊んだ思い出の中に、必ずあるのがバンダイナムコの製品・サービスだ。常に時代の先頭で、エンターテインメントに新たな広がりや深みをもたらし、楽しむことが大好きな世界中の人々から愛され、最も期待される企業、それがバンダイナムコグループだ。

バンダイナムコホールディングスは、バンダイナムコグループの中長期経営戦略の立案や遂行、グループ会社の事業戦略実行支援や事業活動の管理を行うグループ統括会社である。同社は傘下に大きく3つの戦略ビジネスユニットと、それらを主にサポートする役割を担う関連事業会社を有している。バンダイを中核とした玩具ホビー SBU (Strategic Business Unit)、バンダイナムコゲームスを中核としたコンテンツ SBU、ナムコを中核としたアミューズメント施設 SBU だ。その活動フィールドも、日本のみならず、米国、欧州、アジアと今や世界各国に広がっている。

そして、グループ会社全体の IT 戦略を担当しているのが、バンダイナムコホールディングスのグループ管理本部 情報システム部 IT 戦略セクションだ。IT 戦略セクションでは、地方拠点間、グループ会社間、外部協力会社とのコミュニケーションに課題があると認識しており、グループ間共通で利用できるツールの導入を進めていた。

同グループの主要会社には既にビデオ会議システムが導入され、活発に利用されていた。しかし、端末の数に限りがあり、これを備えた会議室は常に予約で満杯。“使いたいときに使えない”状態に陥っていた。そのため、Web カメラとヘッドセットを購入し、フリーウェアを利用して会議を行うユーザーグループも出現していたという。情報システム部としては、セキュリティに対する懸念やサポートができない状況から、フリーウェア利用の拡大を防ぎたいと考えていた。かといって、ニーズが顕在化していないのに、このままテレビ会議システムを拡張するのはコストが掛かり過ぎる。そこで、まったく新しい発想のコミュニケーションソリューションを検討することになった。



バンダイナムコホールディングス
グループ管理本部 情報システム部 IT戦略セクション
IT戦略チーム マネージャー

暉(てる) 由紀 様

導入の理由

選択したのは、シスコシステムズの 「Cisco WebEx Meeting Center」

同グループ IT戦略セクションが着目したのは、SaaS方式で提供されるWeb会議システムである。これならインターネットやPCといった既存のIT資産を主軸に導入でき、しかもテレビ会議と同様の機能を楽しむことができる。調査の結果、選択したのがシスコシステムズのWeb会議ソリューション「Cisco WebEx Meeting Center」(以下、WebEx)だった。その理由を、バンダイナムコホールディングス グループ管理本部 情報システム部 IT戦略セクション IT戦略チーム マネージャーの暉(てる)由紀氏は次のように語る。

「WebExを選んだポイントは3つありました。まず、クライアント側にソフトを導入する必要がなく、OS、Webブラウザに依存せずに使えたことです。次は、グローバル対応です。複数の言語に対応し、当グループの事業会社のある国で、テクニカルサポートを受けられる製品であったこと。そして、ライセンス体系の自由度です。検討の時点では、潜在的なニーズは感じていましたが、個々の利用ニーズが顕在化していなかったため、ユーザーライセンス単位の契約だと柔軟かつスムーズに利用できないなと思っていました。ところが、WebExはライセンスプランが複数あって、“多分こうなるだろう”と想定した利用に合わせて選べる点を評価しました」

導入の効果

海外在住学生のインターンシップ採用、 全国7拠点に散らばる地域統括マネージャーの会議、 ゲーム開発でのアプリケーション共有で活用

実際に利用を開始したのは2009年9月のこと。1年たった今、同グループには、WebExのユニークな活用事例がいくつか誕生している。

1つ目は、バンダイ、バンダイナムコゲームスにおける、海外在住学生のインターンシップ採用面接である。インターンシップは、学生が夏休みを利用して企業で現場の業務を経験するというものだが、ここ数年、両社は海外からの学生を積極的に受け入れている。これまで実験的にフリーウェアを使うなどしていたが、機能上の課題が多く、WebExの導入を機にリアルタイム動画面接を本格的に展開し始めたのである。

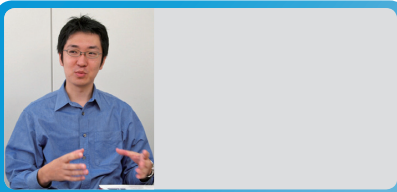
2次面接、3次面接になると、バンダイ、バンダイナムコゲームス側の面接官も人事部門長や役員など複数人になるが、WebExでは難なく会議参加者を増やすことができる。このリアルタイム動画面接は人事部に大変好評だ。なぜなら応募書類だけでは見抜くことのできない評価が行えるからである。WebEx導入以前は、海外在住者が対象の採用であることからコスト面を考慮して極力書類選考で面接者を絞り込んでいたが、導入後、WebExで手軽に面接可能となったことで、可能性のある学生には“とにかく会ってみる”ことができるようになった。実際、顔を合わせて話をした結果、これはという優秀な学生をインターンシップに招くことに成功している。それがそのまま本採用につながるケースもあるという。

2つ目は、ナムコでの事例だ。同社ではアミューズメント施設を地域統括するマネージャーを集めて、月に1回定例会議を開いている。マネージャーの業務拠点は日本全国7拠点に散らばっているため、これ以上物理的に集合することは難しいが、進ちょく把握の頻度を高めたいと、会議をWebExで開催することにしたのである。

その会議では、議長の指示の下に、会議参加者がプレゼンテーションファイルや表計算ファイルを示して次々報告したり、白熱した議論ではカメラを顔に近づけて主張するなど、まさに実際に会っているのと同様の迫力ある会議が行われているという。その結果、マネージャーの上長はその月の売り上げ詳細を迅速に把握してマネージャーに指示が出せるようになり、マネージャーは会議の後、WebExにアクセスしたまま自主ミーティングに入り、共に販促プランを練ったりする習慣が根付いたそうだ。



インターンシップ採用面接の様子



バンダイナムコホールディングス
グループ管理本部 情報システム部 IT 戦略セクション
IT 戦略チーム
宮腰 亮 様

3つ目の事例は、最近バンダイナムコゲームスの開発現場で浸透し始めた、アプリケーション共有機能を使った利用方法だ。ゲームの開発部隊を持つバンダイナムコゲームスでは、外部の協力会社と協業する場面がある。これまでは打ち合わせの際に同社の社員が実際に協力会社まで出向いて行っていたのだが、それを WebEx に置き換えることで、わざわざ出向かなくても制作中のグラフィックなどをその場で確認、修正できるようになった。

これも使い始めるなり、ユーザーの間で好評となった。バンダイナムコホールディングスグループ管理本部 情報システム部 IT 戦略セクション IT 戦略チームの宮腰 亮氏は、ユーザーの声をこう証言する。

「2拠点間でアプリケーションを共有し、場合によってはこちらから相手の端末を操作しながら進行中の製作物を確認、修正できる。移動コストも削減できてちょっとした修正などにも迅速に対応できるので、ユーザーに喜ばれています。このグループでの利用効果を見た別のゲーム開発グループから続々と“うちでも使ってみたい”と利用申請が来ています」



バンダイナムコホールディングス
グループ管理本部 情報システム部 IT インフラセクション
インフラ環境管理チーム
寺岡 麗 様

こうした事例を生むに当たっては、利用促進に向けてバンダイナムコホールディングスの IT 戦略セクションや IT インフラセクションが積極的に支援した。例えば、操作マニュアルの作成がその1つだ。バンダイナムコホールディングスグループ管理本部 情報システム部 IT インフラセクション インフラ環境管理チームの寺岡 麗氏は、次のように語る。

「WebEx でも操作マニュアルを用意されていますが、それは搭載している機能をすべて網羅した汎用的なもので、“この会議を行うには必要ない”という機能も含まれています。そこで、わたしたちでいくつかの会議シチュエーションを特定し、それぞれで不可欠となる操作を、画面キャプチャーなども加えながら細かく作成していきました。しばらくして慣れると、細かい操作マニュアルは必要なくなり、また“こういう機能を使いたい”という要望も出てきたため、当社で利用する機能を中心に全体マニュアルを作成しました。さらに、ユーザー教育も重要だと思い、ナムコのケースでは、最初の時点でマネージャーの方々それぞれに時間を取っていただき、操作方法を説明しています」



バンダイナムコホールディングス
グループ管理本部 情報システム部 IT 戦略セクション
IT 戦略チーム サブリーダー
大月 拓 様

今後の展望

グループインフラ化へ向けて、今後は iPad とのコラボも構想的に変わっていくであろうワークスタイルを支えるインフラとして期待

バンダイナムコホールディングス 情報システム部は、今後 WebEx を同グループ全体の Web 会議ソリューションインフラとして提供する意向を持っている。そのためには、“それはぜひ使ってみたい！”と強い動機を持つ見本が必要と暉氏は考えている。その構想の1つが iPad を端末とした WebEx 利用だ。

例えば、同社では PC 端末で資料共有する仕組みも導入しているのだが、ここでは準備に手間取るという課題を抱えている。だが、ドキュメント共有機能なら WebEx にもあり、使い方も簡単だ。しかも、iPad が端末ということになるとさらにインパクトは大きくなるというわけだ。これと並行して iPhone を使った Web 会議ソリューションも検討している。

バンダイナムコホールディングスグループ管理本部 情報システム部 IT 戦略セクション IT 戦略チーム サブリーダーの大月 拓氏は、Web 会議ソリューションインフラとしての WebEx 活用の未来をこう語る。

「介護や出産で、あるいはパンデミックや自然災害で、思うように会社に出勤できないという事態は誰にでも起こり得ることです。そこで出勤できないから仕事ができないというのは、企業にとっても、そこで働く人々にとっても大きな損失です。そうした中、WebEx のような仕組みがあれば、どこにいてもコミュニケーション、コラボレーションを図ることができます。今後、劇的に変わっていくであろうワークスタイルを支えるインフラとして期待は大きいですね」

世界で最も期待されるエンターテインメント企業を目指すバンダイナムコグループは、社内コミュニケーションの在り方にも、夢と遊び心、そして感動を追求していく。

株式会社バンダイナムコホールディングス



所在地

東京都品川区東品川 4-5-15 バンダイナムコ未来研究所

設立

2005年（平成17年）9月29日

資本金

100億円

従業員数

連結 7251名（平成22年9月30日時点）

バンダイナムコグループの中長期経営戦略の立案や遂行、グループ会社の事業戦略実行支援や事業活動の管理を行うグループ統括会社。同社は傘下に大きく3つの戦略ビジネスユニットと、それらを主にサポートする役割を担う関連事業会社を有している。バンダイを中核としたトイホビー SBU（Strategic Business Unit）、バンダイナムコゲームスを中核としたコンテンツ SBU、ナムコを中核としたアミューズメント施設 SBU だ。その活動フィールドも、日本のみならず、米国、欧州、アジアと今や世界各国に広がっている。

©2011 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco、Cisco Systems、および Cisco Systems ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(0809R)

この資料の記載内容は 2011 年 4 月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



お問い合わせ

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯電話・PHS 含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>